

《目的》日本人の食生活の変化は、国民栄養調査に代表される各種調査の結果、経年ごとに明らかにされている。食生活の変化は多岐にわたっているが、その変化の一つとして、各種加工食品の利用の増加があげられる。また、食生活の変化を規定する要因も様々であり、その変化も大きい、そこで食生活の中心的存在とされる主婦の就業の有無により各種加工食品の利用状況にどのような違いがあるかを調査したので報告する。

《方法》昭和60年5月、本学短大生の世帯を対象に調査用紙を配布し、有効回答279世帯の加工食品の利用状況を明らかにした。なお、調査用紙に掲示した、加工食品々目中にはみそ納豆、豆腐などの食品類は除外した。

《結果》1. 主婦の就業実態：279世帯のうちいわゆる専業主婦は22%、パートタイムの主婦は40%、フルタイムの主婦は38%であった。2. 加工食品の利用とその理由：加工食品を利用するもの91%、利用しないもの9%であった。利用の理由としては、第一位に時間不足が第二位に食事に変化を持たせたい、第三位に疲れて休みたいがあげられており、主婦が専業・就業にかかわらず時間不足が理由の第一位にあげられている。3. 利用頻度の高い加工食品：週単位で利用されているものとしては、和風だしの素、コンソメ、ブイヨンなどのだし類および半調理冷凍食品、レトルト食品などの利用が多かった。月単位で利用されている加工食品は、多岐にわたっており掲示したもの全般が利用されている。主婦の専業・就業により比較してみると、加工食品の種類により両者の利用状況に差のあるものとまったく同じような利用状況のものがあつた。